

# あなたの大切なものになるよう

シチズン東北株式会社

## 渋谷 奈緒美さん

10月21日から23日までの3日間、滋賀県大津市で開催された時計修理技能全国大会(全国時計宝飾眼鏡商業協同組合連合会主催)。シチズン東北株式会社の渋谷奈緒美さん(21歳・村崎野)は、第二部門(クォーツ腕時計)に出場。二度目の挑戦で見事優勝に輝きました。

きだった渋谷さん。高校の総合学科を卒業後、市内でモノ作りに携わりたいとシチズン東北株式会社に入社。入社後、本格的に時計作りについて学びました。本大会の競技内容は、故障した腕時計を修理し、審査基準を満たした製品を、3時間以内に完成させなくてはなりません。普段の業務とは違う故障原因の発見や修理のため、

大会に向けて、練習を重ねて臨みました。

渋谷さんは「昨年は惜しいミスをして、悔しかったので、また今年も出場したいと思っていました。大会までの練習では何回も失敗して、修理するときに、自分が気を付けるところが分かっていたのが良かった」と話します。本番では、積み重ねた練習が自信となり、落ち着いて最後までやり遂げることができました。「実力が出し切れたこと、それが結果に結びついたことが、本当にうれしかった」と喜ぶ一方、「指導してくれた人のおかげで技術が向上しました」と感謝の気持ちを忘れません。

今後の目標は、時計修理2級取得。そして、平成24年に開催予定の時計技能五輪出場だそうです。

お客さんが身に付ける姿を思い浮かべながら、今日も腕時計作りに励んでいます。

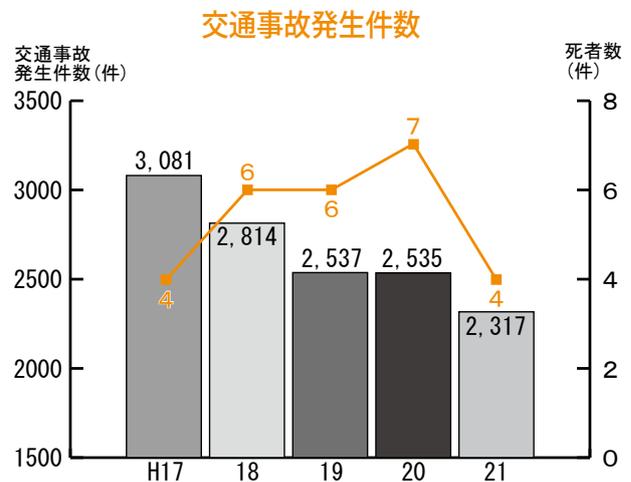


## 数字に見る北上 16

平成21年に市内で発生した交通事故発生件数です。18年から減少し、昨年は急激に減少しました。これは今まで行われた啓発により、皆さんの交通安全に対する意識が高まったものではないでしょうか。しかし今年になり、交通事故発生が20年のペースで増加。特にも、死亡事故が今年10月末までで昨年と同じ4件も発生しています。

12月1日(水)から10日(金)までの間に冬の交通事故防止県民運動、12月11日(土)から20日(月)までの間に飲酒運転撲滅市民運動が行われます。これからの時期は暗くなるのが早いので、運転の際はライトを早めに点灯し、安全運転に心掛けましょう。

2,317 件





話題の本

中央図書館 ☎ 63-3359

江釣子図書館 ☎ 77-2215

和賀図書館 ☎ 72-2322

ぎゅうにゅうだいへんしん!

ひさかたチャイルド

イトウくん 三木 卓

おふろでぽっかぽか 山本 省三

40歳からのメガネ美人

八尾 典子・西尾 浩美

完全図説戦国姫君列伝 榎本 秋

農業がわかると、社会のしくみが見えてくる

生源寺 眞一

もしもし下北沢 よしもと ばなな

### 《11月の新着本から》

『パパとニルス

おやすみなさいのそのまゑに』

マークス・フィスター 作  
那須田 淳 訳  
講談社

カバのパパが子どもを寝かせつけるまでの幸せな時間を描いた絵本。



『いわて旬華愁凍』

多賀谷 真吾 写真・文  
叢文社

四季折々、さまざまに表情を変える岩手の自然風景の写真集。



# きたかみ物産館



郷土料理  
ひつつみ

いわて地産地消2つ星レストラン  
季節郷土料理の店 胡蝶

諏訪町1-1-11

☎63-2151 FAX 63-2152

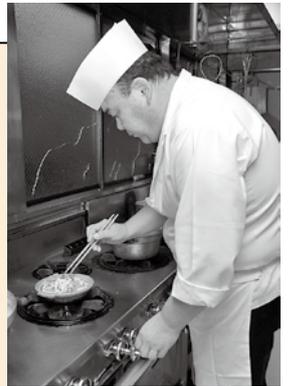
ひつつみ鍋(1人前) 800円



なまりぶし  
生利節の香りが効いた鍋

ひつつみは水と小麦粉で作る、岩手の南部地方の郷土料理です。家庭によって味付けもさまざま。

このひつつみ鍋は、昆布とカツオの一番だしに煮干しだしを加えています。北上産のキノコなどたくさん具材と生利節(サバ節)のせ、香り高い仕上がりに。郷土の温かさが味わえます。



八重樫 春男さん

## 散歩道

126

北上市長 伊藤 研

### 便利さの裏側

11月は出張の機会が多かった。車窓から見る秋晴れの山々は、美しく紅葉していた。この時期はローカル線の方が楽しいかなと、新幹線のスピードを感じながら、ぼんやりと風景を見て思いに浸った。

学生時代、当初の上京は普通急行であった。まだ指定席も特急も寝台列車もなく、岩沼で東北本線から分かれて常磐線まわりで上野駅に向かった。夜行で10時間の旅で、運が悪ければ立ち席であったが、各駅での停車時間も長く、駅弁を食べる楽しみもあった。夏休みや冬休みの時は、上野駅で発車の2時間前からホームに並んで席を確保した。時代の進歩は遠距離の旅を短時間の旅に変えた。10時間が6時間になり、

来月は青森まで新幹線が延長され、2時間半の本数も多くなった。遠くの人ほどそのスピードを実感するであらう。

ビジネスには便利でも旅となるとどうだろう。長時間の座席は苦痛だが、のんびりと車窓からの風景を楽しみたい。旅はのんびりする方が心地よい。

5月の中国三門峡市訪問で、西安から三門峡市まで開業間もない中国の新幹線に乗った。異国の旅では車窓からの風景に興味をそえられるが、235kmの旅をわずか1時間少々というスピードは、風景の切り替わりを早くし、大陸ののんびりとした情緒感を味わい難くした。さらに、中国人乗客の会話の声の大きさも気になった。

昔の東京出張は一泊が常識だったが、現在は日帰りが多い。便利さは楽しみと癒しを奪ったのかもしれない。近代化は都会と地方の文化を近くしたのだろうか。『ふるさと』は遠きにおいて「...」とうたわれているが、